

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第103期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 山九株式会社

【英訳名】 SANKYU INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中村公一

【本店の所在の場所】 北九州市門司区港町6番7号  
(同所は登記上の本店所在地で実際の本社業務は下記で行っております。)

【電話番号】 03(3536)3939 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 小林信久

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区勝どき六丁目5番23号(本社事務所)

【電話番号】 03(3536)3939 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 小林信久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)  
山九株式会社本社事務所  
(東京都中央区勝どき六丁目5番23号)  
山九株式会社北関東支店  
(埼玉県南埼玉郡白岡町大字篠津730番地)  
山九株式会社千葉支店  
(千葉県市原市白金町四丁目63番地)  
山九株式会社横浜支店  
(横浜市中区山下町193番地1 昭和シェル山下町ビル)  
山九株式会社東海支店  
(愛知県東海市東海町三丁目11番1号)  
山九株式会社堺支店  
(堺市堺区松屋町一丁目6番地7)  
山九株式会社神戸支店  
(神戸市中央区海岸通二丁目2番3号 東和ビル)



## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第102期 第3四半期連結 累計期間		第103期 第3四半期連結 累計期間		第102期	
	自 至	平成22年4月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高 (百万円)		279,902		295,880		373,209
経常利益 (百万円)		13,841		14,272		17,572
四半期(当期)純利益 (百万円)		7,130		7,263		8,203
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)		5,942		5,229		6,810
純資産額 (百万円)		106,202		109,976		107,065
総資産額 (百万円)		294,613		303,510		285,939
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)		22.96		23.40		26.42
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		35.4		35.5		36.7

回次 会計期間	第102期 第3四半期連結 会計期間		第103期 第3四半期連結 会計期間	
	自 至	平成22年10月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)		9.37		5.38

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第102期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態及び経営成績の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で大幅に減退した生産活動に対してサプライチェーンの復旧を行うなど生産や消費に持ち直しの動きが広がりました。しかしながら、欧州経済の混乱からユーロ安が進行したことなどにより歴史的な円高となるなど、海外経済の弱さの影響などがわが国の輸出や生産の減少にも繋がる状態となり本格回復までには至りませんでした。アジア諸国や中国などの新興国の成長基調は緩やかながらも持続しておりますが、タイで発生した洪水の影響もあり先行きは不透明な状況となっております。

このような経済情勢下、当社連結グループにおいては、物流事業分野では震災や円高の影響からお客様の生産量、販売量が停滞したことなどにより既存分野では取扱量が伸び悩みましたが、3PL（一括物流）などで新規作業を開始したこともあって事業全体の取扱量は伸びております。一方、機工事業分野では震災関連の復旧に関する工事を実施したこと、国内でメンテナンス事業の推進体制を強化したこと、また海外で設備工事や保全作業が増加したこともあって事業全体の作業量は増加しております。

かかる事業環境に対して、当社連結グループは競争力のあるコスト構造を創り出すことにより、お客様からのコスト削減要請への対応と売上拡大を図ることで、収益を生み出せる体質の更なる強化を推進しております。競争力強化のために原価率の低減と間接経費の削減を推進し、更なる収益体質の強化に取り組んでおります。

また、売上拡大に向けての取り組みとして、お客様のアウトソーシングニーズに対応すべく、3PL、3PM（一括メンテナンス）などの各事業分野の専門性を活かし、国内だけでなく海外での一層の競争力強化と生産性・作業品質・安全品質の向上とコンプライアンスに取り組んで、グローバルな事業拡大に向けた施策を積極的に展開しております。今年度は国際物流事業者としてAEO認定通関業者およびAEO特定保税承認者の認定を受け、国際物流サービスの更なる向上に取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,958億80百万円と前年同四半期比5.7%の増収となりました。また、利益面においては営業利益が143億36百万円と3.1%の減益、経常利益は142億72百万円と3.1%の増益、四半期純利益は72億63百万円と1.9%の増益となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### 物流事業

物流事業は、3PL新規作業を開始し、調達代行業務、震災・円高などの影響で増えた輸出入作業など、ネットワーク物流業務や国際物流業務を中心に取扱量が増加しました。しかしながら、主要港ではコンテナ貨物の取扱いが減少した影響もあって港湾全体の作業量は伸び悩み、収益を下げた結果となりました。客先構内での当社作業量は、国内では鉄鋼、石油・化石関連などのお客様の生産量・販売量

が震災や円高などの影響もあって減少しましたが、一方、海外では鉄鋼関連での作業量が増加しました。

売上高は1,620億2百万円と前年同四半期比5.6%の増収、セグメント利益（営業利益）は37億12百万円と前年同四半期比9.6%の減益となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の売上高に占める割合は54.7%であります。

#### 機工事業

機工事業は、国内では震災関連の復旧工事などを行ったことで設備工事の作業量を確保しましたが、お客様の新規設備投資の圧縮が継続されており、大規模工事案件も減少するなど受注環境は厳しいものとなりました。保全作業はお客様の設備を安定操業させる為の需要は高く受注は堅調となりましたが、SDM（大型定期修理工事）の工事規模は縮小しております。一方、海外では鉄鋼関連のお客様の工場構内での設備解体・据付工事や整備作業などが増加し、石油・石化関連でのお客様設備の日常保全やSDMなどの作業も増加しました。

売上高は1,191億92百万円と前年同四半期比7.3%の増収、セグメント利益（営業利益）は98億60百万円と前年同四半期比0.6%の僅かな減益となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の売上高に占める割合は40.3%であります。

#### その他

その他は、震災復旧対応での機材賃貸などが増加しましたが、前年同四半期には大型建設工事の完成があったことなどから工事量が減少しました。

売上高は146億86百万円と前年同四半期比4.4%の減収、セグメント利益（営業利益）は7億24百万円と前年同四半期比6.0%の減益となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の売上高に占める割合は5.0%であります。

## (2) 財政状態の分析

### 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,345億97百万円であり、前連結会計年度末に比べ156億12百万円と13.1%増加しました。主な要因は、売上の増加に伴う受取手形及び売掛金の増加等によるものです。

#### 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は1,689億13百万円であり、前連結会計年度末に比べ19億58百万円と1.2%増加しました。主な要因は、新規設備投資による有形固定資産の増加や新規出資に伴うのれんの増加と投資有価証券の時価下落による減少等の差によるものです。

#### 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,146億32百万円であり、前連結会計年度末に比べ158億99百万円と16.1%増加しました。主な要因は、売上の増加に伴う外注費等の増加による支払手形及び買掛金の増加や未払法人税等の増加等によるものです。

#### 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は789億2百万円であり、前連結会計年度末に比べ12億39百万円と1.5%減少しました。主な要因は、投資等に係る長期借入金の増加、退職金支出に伴う退職給付引当金の減少等の差によるものです。

#### 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,099億76百万円であり、前連結会計年度末に比べ29億10百万円と2.7%増加しました。主な要因は、利益剰余金の増加、為替の変動による為替換算調整勘定の減少、投資有価証券の時価下落によるその他有価証券評価差額金の減少等の差によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は、前連結会計年度末を1.2ポイント下回る35.5%となっております。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社連結グループが対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	326,078,030	326,078,030	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数は、1,000株で あります。
計	326,078,030	326,078,030		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日 ～平成23年12月31日		326,078		28,619		11,936

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年9月30日の株主名簿により記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,066,000		
	(相互保有株式) 普通株式 1,839,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 306,141,000	306,141	
単元未満株式	普通株式 3,032,030		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	326,078,030		
総株主の議決権		306,141	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄には、自己保有株式および相互保有株式が次のとおり含まれております。

当社	793株
山九重機工(株)	508株

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 当社	北九州市門司区港町 6 - 7	15,066,000		15,066,000	4.62
(相互保有株式) 山九重機工(株)	川崎市川崎区塩浜 4 - 13 - 1	1,839,000		1,839,000	0.56
計		16,905,000		16,905,000	5.18

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が2,000株(議決権2個)あります。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含めております。



## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### (1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役専務取締役 (財務、人事・労政、技術・システム管掌兼財務担当CFO)	代表取締役専務取締役 (財務、人事・労政、技術・システム管掌)	村上 喜一	平成23年10月1日
取締役 (財務、人事・労政、技術・システム管掌兼財務担当CFO付)	取締役兼常務執行役員 (財務担当CFO)	井野 学	平成23年10月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,975	16,024
受取手形及び売掛金	89,822	100,091
有価証券	1,723	1,704
未成作業支出金	1,898	2,697
その他のたな卸資産	1,246	1,277
その他	6,461	12,843
貸倒引当金	143	42
流動資産合計	118,984	134,597
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	52,292	51,098
土地	47,962	48,738
その他（純額）	19,702	20,819
有形固定資産合計	119,957	120,656
無形固定資産		
のれん	-	1,987
その他	6,099	6,537
無形固定資産合計	6,099	8,524
投資その他の資産		
投資有価証券	17,660	15,624
その他	24,559	25,371
貸倒引当金	1,321	1,263
投資その他の資産合計	40,898	39,731
固定資産合計	166,955	168,913
資産合計	285,939	303,510

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48,527	54,847 <sub>1</sub>
短期借入金	26,726	19,888
コマーシャル・ペーパー	-	10,000
未払法人税等	2,522	4,866
未成作業受入金	253	726
賞与引当金	2,410	2,807
その他	18,293	21,496
流動負債合計	98,733	114,632
固定負債		
長期借入金	28,534	30,619
退職給付引当金	36,368	34,061
負ののれん	64	-
その他	15,173	14,220
固定負債合計	80,141	78,902
負債合計	178,874	193,534
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	11,943	11,943
利益剰余金	74,171	78,809
自己株式	5,695	5,711
株主資本合計	109,039	113,661
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,248	2,060
繰延ヘッジ損益	283	301
土地再評価差額金	2,519	1,755
為替換算調整勘定	4,439	6,021
その他の包括利益累計額合計	3,994	6,017
少数株主持分	2,020	2,331
純資産合計	107,065	109,976
負債純資産合計	285,939	303,510

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	279,902	295,880
売上原価	257,032	273,213
売上総利益	22,869	22,666
販売費及び一般管理費	8,079	8,330
営業利益	14,790	14,336
営業外収益		
受取利息	305	360
受取配当金	307	477
その他	771	882
営業外収益合計	1,385	1,719
営業外費用		
支払利息	874	693
その他	1,460	1,089
営業外費用合計	2,334	1,783
経常利益	13,841	14,272
特別利益		
段階取得に係る差益	-	375
特別利益合計	-	375
特別損失		
投資有価証券評価損	-	261
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	879	-
特別損失合計	879	261
税金等調整前四半期純利益	12,961	14,386
法人税等	5,656	7,004
少数株主損益調整前四半期純利益	7,304	7,381
少数株主利益	173	118
四半期純利益	7,130	7,263

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,304	7,381
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	725	1,184
繰延ヘッジ損益	40	17
土地再評価差額金	-	786
為替換算調整勘定	631	1,775
持分法適用会社に対する持分相当額	45	39
その他の包括利益合計	1,361	2,152
四半期包括利益	5,942	5,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,830	5,262
少数株主に係る四半期包括利益	112	33

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更 第2四半期連結会計期間より、株式の取得に伴い当社の子会社となった中央テクノ(株)を新たに連結の範囲に含めております。また、持分法適用会社でありました上海経貿山九儲運有限公司への追加出資に伴い、同社及び上海設備安装工程有限公司が子会社となり、それぞれを連結の範囲に含めております。	
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更 第2四半期連結会計期間より、上海経貿山九儲運有限公司を連結子会社としたため、持分法の適用範囲から除外しております。	

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
(1) 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	
(2) 法人税率の変更等による影響 「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。この税率変更により、未払法人税等は1,058百万円増加し、法人税等は同額増加しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)	
夢洲コンテナターミナル(株)	1,306百万円	夢洲コンテナターミナル(株)	1,440百万円
(株)ワールド流通センター	678 "	(株)ワールド流通センター	598 "
従業員(住宅貸付)	529 "	従業員(住宅貸付)	474 "
小倉国際流通センター(株)	320 "	小倉国際流通センター(株)	283 "
青海流通センター(株)	143 "	その他(11社)	290 "
上海経貿山九儲運有限公司	670 "		
その他(9社)	231 "		
計	3,880百万円		3,086百万円
小倉国際流通センター(株)への保証320百万円については、その60%を鶴丸海運(株)および山田港運倉庫(株)が保証しているため、実質の保証額は40%相当額の128百万円であります。		小倉国際流通センター(株)への保証283百万円については、その60%を鶴丸海運(株)および山田港運倉庫(株)が保証しているため、実質の保証額は40%相当額の113百万円であります。	

2. 1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形		78百万円
支払手形		2,110 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれん及び負ののれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)並びにのれん及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	8,288百万円	8,531百万円
のれん及び負ののれんの償却額	32 "	70 "



(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,800	9.0	平成22年3月31日	平成22年6月30日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,799	9.0	平成23年3月31日	平成23年6月30日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	物流事業	機工事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	153,404	111,130	264,535	15,367	279,902		279,902
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,610	2,906	7,516	5,388	12,905	12,905	
計	158,014	114,037	272,051	20,756	292,808	12,905	279,902
セグメント利益	4,106	9,924	14,031	770	14,801	10	14,790

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム、人材派遣、機材賃貸、土建・建築工事等の関連サービスを実施しております。

2. セグメント利益の調整額 10百万円は、未実現利益調整額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	物流事業	機工事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	162,002	119,192	281,194	14,686	295,880		295,880
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,312	2,712	7,025	4,758	11,784	11,784	
計	166,315	121,905	288,220	19,444	307,664	11,784	295,880
セグメント利益	3,712	9,860	13,573	724	14,297	38	14,336

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム、人材派遣、機材賃貸、土建・建築工事等の関連サービスを実施しております。

2. セグメント利益の調整額38百万円は、未実現利益調整額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	22.96円	23.40円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	7,130	7,263
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	7,130	7,263
普通株式の期中平均株式数(千株)	310,512	310,411

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月7日

山九株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴 田 良 智 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 増 村 正 之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上 田 知 範 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている山九株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、山九株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。